

11/5 朝日

# 検診控え進行した状態で発見

## がん検診受診者 前年比3割減

新型コロナウイルス感染症の影響で、がん検診が中止されたり受診控えが増え

的に検診を受けてほしい」と呼びかけている。

▼1面参照

たりした結果、がんの診断そのものも9・2%減ったとする調査結果を日本対がん協会と主要3学会が発表

日本対がん協会のまとめによると、主な5種のがんの去年の検診受診者は、前年比で約3割減っていた。がん専門病院のがん研有明病院（東京都江東区）で2年に1度、がん検診を受

けてきた70代男性は去年、新型コロナへの感染を懼れて検診をキャンセルした。今年に入り、のどのつかえを感じて受診。内視鏡検査を受けると、食道に進行したがんが見つかり、咽喉を開いて摘出する大きな手術を受けた。去年のうちに内視鏡検査を受けていれば、早い段

は32%減だった。進行度を表すステージ別でみると、ほかのステージでは大きな差がないのに、最も早期の「ステージⅠA」では50%

率の高さなど、日本のがん治療の好成績を下支えしてきたのは、検診などで早期の発見が多かったこと。「気になるけど様子をみよう」「引き続き検診は控えいかと医師はみてる。」

全国から患者が集まっている有明病院では、紹介されて来る患者が減り、去年の手術数は前年から15%減った。胃がん全体の手術数は32%減だった。進行度を表すステージ別でみると、ほかのステージでは大きな差がないのに、最も早期の「ステージⅠA」では50%

今回の調査を共同で実施した日本癌学会理事長の佐谷秀行・慶應大教授は、「今後、深刻な事態にならないように、検診・受診が極めて重要だとと思う」と話した。（編集委員・辻外記子）